

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

夢や希望、志を持ち、学びを通じて、自らの人生をたくましく生きる力と社会に貢献する力を兼ね備えた人材を育成する学校をめざす。

(「夢に向かってチャレンジできる学校」、「生徒一人ひとりを大切にする学校」、「あたたかい学校」、「面倒みのいい学校」をめざす)

- (1) 自らの人生を切り拓き、生涯をたくましく生きる力を育む。
- (2) 人を思いやり、強い責任感と高い規範意識を持ち社会に貢献できる力を育む。
- (3) 自らの考えを的確に発信し、相手の意見も傾聴できるコミュニケーション力を育む。
- (4) 特別枠入試(「日本語指導が必要な生徒選抜」)の実施校として、より一層多様な価値観を認め、異文化を理解し共生社会を実現する力を育む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 生徒に「学ぶことの意味」をていねいに伝え「学ぶ意欲」を喚起する。また、基礎・基本の定着とともに自らの考えを的確に伝え、相手の意見を傾聴できるコミュニケーション力を育成する。

ア 組織的・継続的に授業改善を推進する。そのために教員間の授業見学等とともに、1人1台端末の活用を推進する。

イ 生徒に多様な価値観を理解する力を育む。その一環として国際理解教育等を推進する。

ウ 基礎・基本の定着のための授業規律、ノートの取り方、話の聴き方、予習・復習、家庭学習などの指導とともに、学習の積みあげや発展的な学習指導にも取り組む。

エ 論理的に考え、まとめ、発表する力、相手の意見を傾聴する力を育成する取組みを推進する。

オ 生徒の進路希望、興味・関心、能力・適性に応じた教育課程の編成・実施とともに、新学習指導要領を踏まえた評価の工夫・改善に取り組む。

カ 英語のコミュニケーション能力や英語の四技能の向上のため、積極的に英語を使う学校づくりとともに、検定試験の受検を推進する。

※ 生徒向け学校教育自己診断「授業満足度」の肯定的回答率を毎年2%以上引き上げ、令和6年度に84%をめざす。(R1 74% R02 73% R03 78%)

(以下「生徒向け学校教育自己診断」は「生徒診断」と表記、%は「肯定的回答率」を示す)

※ 生徒診断「授業で発表する機会がある」を毎年2%以上引き上げ、令和6年度に76%をめざす。(R1 69% R02 68% R03 70%)

2 キャリア発達の支援

- (1) 生徒が望ましいキャリアの展望を持つために、以下の取組みを推進する。

ア 校内で連携して3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育を推進する。

イ 専門機関等との連携や「総合的な探究の時間」の活用等により、1年次から自らの将来や社会について考え、進路実現に向けて努力する生徒を育成する。

ウ 自習室の活用等、1年次から主体的に学習に取り組む生徒を育成する取組みを推進する。その際、教育産業等の活用を図る。

エ ホームページ等を活用して、進路に関する情報を積極的に発信する。

※ 生徒診断「進路指導関係4項目」(ガイダンス等・必要な科目選択・知りたい情報・進路や生き方について考える機会)を毎年1%以上引き上げ、令和6年度に90%をめざす。(R1 81% R02 83% R03 87%)

3 生徒の自己効力感と人権意識の向上(「自主自律」や「文武両道」の精神を育成)と、誰もが安心して学ぶことのできる学校づくり

- (1) 生徒の自己効力感の育成のために以下の取組みを推進する。

ア 校内で連携して、生徒が学級活動、学年・学校行事、部活動、ボランティア活動等に1年次から主体的に取り組むことを支援し、協調性や向上心、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を育成する。

イ 「あいさつ」「服装・髪型」「時間管理」等生活習慣の確立とともに、公共のルールやマナーを守る社会性を育成する。その際、保護者との連携を推進する。

※ 生徒診断「行事満足度」を毎年3%以上引き上げ、令和6年度に68%をめざす。(R1 79% R02 59% R03 69%)

- (2) 生徒の人権尊重意識を向上させ、違いを認め互いの立場や思いを尊重する心、状況に応じた言動ができる力を育成する。

- (3) 誰もが安心して学ぶことができるよう健康安全教育、防災教育等を組織的・計画的に実施する(いじめ等の防止、薬物乱用の防止、組織的な防災避難訓練)。

4 学校全体の課題を解決するため、組織的活動の徹底と教職員力の向上

- (1) 自主的・主体的に物事に取り組む生徒の力を育成するため、以下の取組みを推進する。

ア 学校教育目標の共有とともに、卒業までの3年間を見通した組織的・系統的な教育活動を推進する。

イ 将来構想検討委員会・分掌・学年・教科等で連携するとともに、取組みを分析・評価し、改善につなげる。

- (2) 下記の学校全体の課題に重点的に取り組む。

ア 「日本語指導が必要な生徒選抜」による入学生徒への指導体制の確立。国際理解・国際交流の取組みの充実

イ 教職員の人権意識の向上をめざす研修の充実とともに、人権侵害事象の未然防止(SNSの適切な使用など)や関係諸機関と連携した指導の充実

ウ 配慮を要する生徒の共通理解とともに、保護者や関係諸機関等(SCやSSW等)とも連携した組織的・継続的な教育相談及び支援教育の充実

エ ホームページ等による教育活動の積極的で迅速な校内外への発信

オ 新型コロナウイルス感染症への組織的な対応とともに、ICT機器の組織的な活用の推進

- (3) 組織的にミドルリーダーや経験の少ない教員の育成に取り組むとともに、教員の自己研さんを進める。

ア 教員の働き方改革に向けて、学校全体で業務の見直しを行うなど、教員の負担軽減等の取組みを推進

- (4) 良好な教育環境の確保に努め、施設、設備の計画的な改善に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見
(選択肢は、1=よくあてはまる、2=ややあてはまる、3=あまりあてはまらない、4=まったくあてはまらない。文中の回答の数字(%)は、特に指定しない限り1と2の合計を肯定的回答とする)	

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) ・「学ぶ意味」を伝えることによる「学ぶ意欲」の喚起 ・基礎・基本の定着、自らの考えを的確に伝え、相手の意見も傾聴できるコミュニケーション力の育成	(1) ア・アンケート結果等を踏まえた効果的な習熟度別少人数授業を実施する。 ・1人1台端末等の活用を推進する。 イ・国際理解教育等を推進する。 ウ・授業において、目標明示とふり返りの実施とともに、授業規律、ノートの取り方、話の聴き方等を継続的に指導する。また、学習状況等を踏まえて授業の見直しを図る。 ・学年と教科が連携して、学習習慣の定着を図るとともに、教科で3年間をみとおした継続的な学習指導を行う。 エ・論理的に考え、まとめ、発表する力、相手の意見を傾聴する力を育成する。 オ・進路希望等に応じた教育課程の編成と実施、新学習指導要領を踏まえた評価の工夫・改善を図る。 ・分掌・学年・教科が連携して、組織的・計画的に講習・補習等の指導を実施する。 カ・検定試験等により、英語運用能力の向上を図る。英語以外の検定試験の受検も推進する。	(1) ア・生徒診断「教え方に工夫をしている先生」 85%以上[84%] ・生徒診断「コンピュータ等の活用」 94%以上[93%] イ・各学年の「総合的な探究の時間」等で国際理解教育等の実施(年1回以上) ウ・生徒診断「授業に満足」80%以上[78%] ・生徒診断「授業はわかりやすい」 81%以上[79%] ・生徒診断「分からないことについて質問しやすい」 75%以上[73%] ・教員診断「学習指導計画等について話し合う機会」 80%以上[78%] エ・生徒診断「考えをまとめ発表する機会」 72%以上[70%] オ・生徒診断「自分の進路に必要な科目の選択」 85%以上[84%] ・生徒診断「学習評価に納得」 89%以上[88%] ・教員診断「補習など適切な指導」 88%以上[87%] カ・英語資格検定受験(160人以上)[150人]	
2 キャリア発達の支援	(1) ・生徒が望ましいキャリアの展望を持つための取組み	(1) ア・卒業までの3年間をみとおした指導計画を作成、実施する。 ・計画的に学習等に取り組む姿勢を育成するため、生徒のスケジュール帳の積極的な活用を推進する。 イ・専門機関等と連携して生徒の進路意識を高める説明会や体験の機会を設定する。 ・「総合的な探究の時間」等において将来や社会について考え、発表する機会を設定する。 ウ・自習室の積極的な活用を推進する。 ・進路指導部と学年・教科が連携して、組織的・計画的な進路指導を実施する。その際、教育産業データを活用する。 エ・進路情報を保護者に積極的に発信する。	(1)(1) ア・生徒診断「進路指導関係4項目」 88%以上[87%] イ・各学年で体験等の機会(年1回以上) ・各学年の「総合的な探究の時間」等で発表の機会(年1回以上) ウ・教員診断「教職員全体で進路指導に取り組む体制」 61%以上[57%] ・四年制大学進学における希望実現 93%以上[93%] ・学校斡旋就職100%維持 エ・保護者診断「適切な情報提供」 79%以上[77%]	
3 誰もが安心して学ぶことのできる学校づくり 生徒の自己効力感と人権意識の向上と、	(1) ・生徒の自己効力感の育成のための取組み推進 (2) ・違いを認め互いの立場や思いを尊重する心、言動ができる力の育成 (3) ・健康安全教育、防災教育等の実施	(1) ア・校内で連携し、生徒が1年次から部活動や学校行事等に主体的に参加し、協調性等を育むよう支援する。 ・部活動参加促進のため、入学時の部活動紹介、試合予定の周知等を実施する。 ・生徒会や部活動等において、ボランティア活動や地域貢献活動等への参加を促進する。その際、感染状況を踏まえながら参加する。 イ・体育祭(応援団)、文化祭指導等において生徒の取組みに教員が積極的に関わる。 ウ・あいさつ運動等、生徒を育成する取組みを教員が支援する。 ・遅刻生徒の実態を踏まえた具体的な指導方法を検討し、学年・分掌で連携して取り組む。 ・アルバイト等について、生徒状況を踏まえた指導とともに、保護者に情報を周知する。 ・生活習慣の確立とともに公共のルール等を守る生徒育成のため、多様な生徒に配慮しながら、教職員が方針を共有し指導に取り組む。また、指導方針をていねいに説明し、生徒・保護者との協力体制を構築する。 (2) ・人権学習、学年・学校行事等の機会を通して、違いを認め互いに思いやる心と言動ができる生徒の育成、多様性を認める集団づくりに取り組む。 (3) ・健康安全教育及び防災教育等を組織的、計画的に実施する	(1)(1) ア・生徒診断「学校行事満足度」 72%以上[70%] ・生徒診断「部活動満足度」 65%以上[62%] ・入学時の部活動紹介。公式戦の見学等ができれば部活動予定を周知(学期1回) ・くろーばあ部他でボランティア活動等に参加 イ・生徒診断「文化祭・体育祭が楽しく行える」 78%以上[76%] ウ・遅刻者総数を年間件2000件以下[4413件] ・教員診断「協力して生徒指導に当たっている」 71%以上[68%] ・保護者診断「生徒指導方針に共感できる」 85%以上[83%] (2) ・生徒診断「学校で人権や命の大切さについて学ぶ機会が多い」 87%以上[86%] (3) ・いじめ対策委員会(学期1回) ・薬物乱用防止教室(年1回) ・組織的な防災避難訓練(年1回)	
4 学校全体の課題を	(1) ・自主的・主体的に取り組む生徒の育成 (2)学校重点課題	(1)(1) ア・年度当初に全教職員で目標を共有する。その際、学校経営計画とともに、分掌・学年等の目標を共有 イ・各学期末をめぐりにふり返りを行うとともに、年度末には分析・評価のうえり継ぎを行う。 (2) ア・渡日生の受入れについて、学校全体で組織的な取組みとともに、学外への周知を図る。 ・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、国際交流を推進する。 イ・研修の充実等により、教職員の人権についての意識と行動力を高める。教職員からの働き	(1)(1) ア・教員診断「教育活動について話し合い」 95%以上[95%] イ・教員診断「分掌・学年等の連携が円滑」 72%以上[70%] ・教員診断「評価を行い、次年度の計画に活かす」 78%以上[76%] (2) ア・学内外の説明会(5回以上) ・渡日生の情報共有のための学習会等(学期1回以上) イ・教員診断「人権尊重に関して全教職員で話し合い」 71%以上[68%]	

<p>解決するための組織的活動の徹底と教員力の向上</p>	<p>(3) ・組織的な教員の育成と教員の自己研さん</p> <p>(4) ・施設、設備の計画的な改善</p>	<p>かけや生徒の学ぶ機会の充実により、人権尊重の考えや行動ができる生徒を育成する。 ・SNSの適切な使用について学年で生徒向け学習会等を実施する。</p> <p>ウ・教職員研修等により、教職員が生徒の相談や悩みなどに対応できる力を身に付ける。 ・高校生活支援カードの活用等により、配慮を要する生徒の情報を学校全体で共有 ・学年と教育相談委員会・支援教育委員会等で協力し、保護者や関係諸機関（SC、SSW、各機関等）との連携を推進</p> <p>エ・ホームページや学校パンフレット等を活用し本校の特長について情報発信する。</p> <p>オ・自然災害や感染症による臨時休業等に備えてホームページ、学習支援クラウドサービス等の整備を行う。</p> <p>(3) ・管理職、首席等を中心に、教員のニーズや、経験年数の少ない教員等の育成・指導の観点を踏まえ、研修会等を実施する。 ・教員の働き方改革に向けて、会議のペーパーレス化、ICT機器活用による情報共有の推進や、業務分担の見直し等を行い、教員の負担軽減に努める。</p> <p>(4) ・生徒の自主的な清掃活動について、学校全体で取り組むとともに、生徒の環境整備についての意識を高める。 ・施設・設備について計画的な改善に努める。</p>	<p>・生徒診断「人権や命の大切さについて学ぶ機会」 87%以上[86%] ・生徒診断「SNSを適切に使用」 94%以上[94%] ・保護診断「子どもはSNSを適切に使用」 87%以上[85%]</p> <p>ウ・生徒診断「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」 85%以上[83%]</p> <p>エ・教員診断「教育活動に必要な情報について生徒・保護者・地域への周知」 85%以上[84%]</p> <p>オ・保護者診断「学校のホームページをよく見る」 52%以上[46%] ・保護者診断「携帯連絡網は役立っている」 94%以上[94%]</p> <p>(3) ・研修会を各学期に1回実施 ・運営委員会で年間を通して、業務の見直しを行う。 ・特に会議のペーパーレス化を推進 職員会議（年15回）半数以上を原則ペーパーレス</p> <p>(4) ・生徒が中心となり学校内外の清掃活動を実施（学期1回以上） ・生徒診断「教室や廊下等の清掃が行き届いている」 72%以上[70%] ・生徒診断「施設や設備等をすぐに修理、取り替えてくれる」 73%以上[71%] ・教員診断「教室や廊下等の清掃をはじめ教育環境を整備」 72%以上[70%]</p>
-------------------------------	---	--	--